

“Dance with Heart”
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.

The Kikunokai Dance Troupe
Chairperson : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会

〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所

〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart

舞踊劇「阿国かぶき」より



創立40周年 誠に有難うございます



ご挨拶

舞踊集団 菊の会

代表 畑 聡

風薫る候、皆様におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

お蔭をもちまして、菊の会はこの四月二十四日に創立四十周年を迎える事が出来ました。

これも偏にこれまで永きにわたり皆様から頂きました暖かく力強いご支援の賜と心より厚く感謝御礼申し上げます。

菊の会は一九七二年(昭和四十七年)に創立者畑道代先生によつて僅か七名で発足されました。それから、当時子供だった私達に心血を注いで芸の心と技を授け、古典舞踊を基本として、各地の民俗舞踊を学びそこから展開させ、芸術祭で優秀賞受賞となつた作品を含む大作の舞踊劇や、畑道代の独自の世界を拓いた創作舞踊、そのほか小品の舞踊選集まで沢山の作品を創り残してくれました。

これまでに世界五十一カ国・九十三都市での国際交流の海外公演をはじめ、最近では文化庁事業として未来を担う子供のための舞台芸術体験事業の学校公演を、機会の少ない離島等で積極的に展開

し創立者の志を受け継いだ活動を続けております。

また菊の会と致しましては、この秋、十月十八日に浅草公会堂に於きまして創立四十周年記念公演として、三隅治雄作・演出、畑道代振付、田中利光作曲で創立者の畑道代主演により再演を重ねて来た、菊の会の代表作の一つ舞踊劇「阿国かぶき」を新生菊の会として上演致します。

これは晩年病床で畑道代先生が企画し主なる配役も決定したものであります。皆様には是非その思いも含めてご高覧賜ります様、心よりお願い申し上げます。次第でございます。

私共菊の会はこの創立四十周年を新たな出発として、創立者の志と情熱を胸に新しい出発を期して参る決意でございます。

そして私達の舞台を通じ日本の美・日本人の心をお伝え出来、その事が少しでも社会のお役に立つ事が出来れば望外の幸でございます。

皆様方におかれましては、尚一層のご指導ご鞭撻を賜ります様、何卒宜しくお願い申し上げます。

「日本の生命力を世界へ」

バーレーン王国特命全権大使 医学博士
ハリール・ハッサン



左上：桃畑の撮影シーンを見守る黒澤明監督と畑道代前代表
左下：菊の会公演メンバーが出演した「狐の嫁入り」の撮影シーン

右上：ハッサン大使と御子息を囲んで
右下：畑道代が振付した「桃畑」のラストの壮大な舞踊シーン

菊の会におかれましてはこの度は創立四十周年、誠にありがとうございます。本おめでとうございます。本年、私もバーレーン王国は日本との国交樹立四十周年を迎えます。偶然にも世界的に有名な菊の会も創立四十周年を迎える事はご同慶の至りであります。

菊の会は、素晴らしい舞踊を日本のみならず海外でも常々発表され、万国共通の舞踊というツールを通して世界中に日本の伝統の素晴らしさを伝えていきます。

公演を拝見する度、日本舞踊は繊細さと大胆さを兼ね備えたものだと感じます。また、昨年三月十一日に東日本大震災が起こった際、寡黙でありながら有事には行動力を発揮する日本人気質を、日本舞踊が体現してきているのだと気づきました。

その国の文化に触れることで国民性を理解できると思いますが、日本舞踊ほど日本人の生命力を表現できるものはないように思えます。

中でも、黒澤明氏の映画で採用された菊の会の舞踊は、世界中の賞賛を受けるほど美しさと強さに満ちあふれ

ています。創始者の畑道代女史の挑戦心は、晩年も衰えることがなかったことと存じます。菊の会の制作意欲、新しいことへの挑戦心、先代を敬い次世代を養う精神は、世界が注目すべきです。それはまた、古い歴史を持ちながら、経済・社会の自由化、女性の地位向上を図る我が国に重なる部分が多々あります。

駐日バーレーン王国大使館が、二国間文化交流の一端を担うことは誠に光栄であります。今後も当国だけでなく、アラブ諸国と日本のつながりを強化するようなイニシアチブをとっていきたいと考えております。私はこれらの関係が、更に深くなり、相互利益となっていくと確信しています。バーレーン王国を代表して、菊の会の今後の活躍をお祈りすると共に、日本とバーレーン王国の二カ国間のより一層の文化交流を期待しております。



「菊の会」の前途は洋々

演劇評論家

藤田 洋



舞踊劇「阿国かぶき」より 写真左下：若柳彦左衛門氏（名古屋山三）と畑道代（阿国）

「菊の会」が創立四十周年を迎えたことは喜ばしい大きな節目である。

心からお目出とうとお祝いを申しあげたい。

創立者の畑道代さんが、この大きな節目に接する前に他界されたことは、悔みても余りある痛恨事だった。当時内心、これからの「菊の会」はどうなるのかと心配していた。しかし、その心配が杞憂であったことを、四十周年記念第一弾の「日本のおどり」早春に舞う（二月二十二日、なかのZEROホール）で示してくれた。

二代目で後継リーダーの畑聡を中心に、これまで菊の会を支えてきた人びとがチームワークのよくとれた、一糸乱れぬ舞踊を見せてくれたのである。わたしはこれまで、数知れない公演の舞台を見てきて、まず元気のよいエネルギーが、観客を魅了していることを知っているが、「菊の会」の舞台にはそのエネルギーが充満していたのである。

これなら、これから先も大丈夫だと、将来に安心をもった。

長い間、「菊の会」を見てきて思い出は多いが、忘れてたいのは「阿国かぶき」を京都・南座で見たときのことであらうか。

出雲の阿国は歌舞伎の始祖と呼ばれ、四條大橋の傍らに石碑が建っている。この河原の小屋からはじまって、紆余曲折をへて今日の歌舞伎に発展していった。

その中心人物のスターを、畑道代（尾上菊乃里）が主演したのである。京生まれの畑さんにとっては、たぶん懸案の作品だったに違いない。東京に本拠地があるが、京都の八瀬にも研修所があるのは、日本舞踊の原点をしっかりと押えておこうとする気組みに相違ないと、わたしは勝手に考えているが、そう見当違いではあるまい。さらなる発展を期待したい。

それには、四十年間培ってきた活動の継続と「菊の会」の方々の「和」と「研鑽」が目標になってくるのだろう。祝福の一言。



「菊の会への期待」

NHK会友・舞踊評論家
石川健次郎

菊の会が創立四十周年を迎えられた事を心から御祝い申し上げます。

昭和四十七年(一九七二)四月に誕生された菊の会のことは、今更申し上げる迄もなくご存知の方も多いと思いますが、また直接菊の会の公演をご覧になられた方もおいでの事と思います。さて舞踊の世界に携わって来ましたが、強く印象に残ったこととして菊の会との出会いを挙げたいと思います。それは勿論創立者の故畑道代先生の叡知によるもので、古典舞踊尾上菊乃里こと畑



道代として早くからご自身の舞踊観を創り上げたことによります。菊乃里の師、初

代尾上菊之丞も歌舞伎舞踊の大御所でありながら、例えば旧約聖書から取材したノアの方舟の物語を創作舞踊にして私達は驚かされました。

た。菊乃里さんもその頃から新しい舞踊に対する洗礼を受けられたことでしょう。

やがて菊の会の代表としての畑道代先生の心には、新しい時代には新しい舞踊を創る必要を悟り、古今の舞踊に限らず、東西の舞踊美学を



取り入れた工夫が、菊の会の公演記録からも窺えます。

さて、論語を出典とする諺に「知者は惑わず勇者は懼れず」とありますが、菊の会の舞踊公演を観るごとに、常に十分な調査、研究、構成、音楽、振付、稽古、本番と、

実に正確な判断の基に、それぞれ全員が迷うことなく自信を持って舞台上に臨まれています。これは観客にしても大変嬉しいことです。

さて、これでこれからの菊の会には何を期待すれば良いのでしょうか。月並みですが、四十周年を迎えたことに因んで、「不惑」を提案し

たいと思います。これも論語が出典ですが、ご存知の「四十而不惑」です。世の中の激しい変化を考えますと、確りと現代を見据えて、現代に相応しい新しい踊りを、

惑わず勇気を持って創作することが、菊の会に引き継がれた天命だと思えます。



周年 うございます

国立音楽大学 名誉教授
チャイコフスキー音大 名誉教授

田中利光

畑道代さんと三隅治雄さんの息の合ったお二人が作られた数々の作品のうち、私はわずか三作「阿国かぶき」「寒牡丹」「土踏・波踏・舞踏」の作曲をさせていただきましたが、お二人の日本舞踊の伝統への思いの強さ、知識の深さ、過酷な条件を物ともせずにとめあげられる気力、なにごとに呼び起こされて、私にとつての日本音楽とは何かを考へる貴重な体験となり作曲する上での新しい発見にも繋がったと思つていま

イオリン、チェロなどの西洋の弦楽器に求め、結果的に、笙、箏、篠笛、琵琶、箏、鳴りもの、などに西洋の管弦楽器を加える和洋混合管弦楽という楽器編成を考えました。管弦楽のスコア総ページは三五四頁。管弦楽曲三、四曲分の長さになる。こういう編成での経験は得難いものであった。菊の会の海外公演で度々上演されていることは作曲家冥利に尽きるとい

れた空間の中ではじけるような洗練とした魅力を發揮していたことが抜群の魅力。舞台芸術の特性である「肯定への意識」を踊り手たちが巧みに客席に振りまいて観客の心を捉え、空間のゆるぎない構造化に貢献している。苦闘の道程を乗り越えて目指した畑道代さんの目標が、今や、畑聡さんを新代表とする菊の会全員が継承し見事に達成しているという実感を果たしたことは私にとつても大きな収穫であった。

〈菊の会創立四十周年〉



「菊の会」の踊り

舞踊評論家
藤井修治

明治維新以来、極端な欧米化政策がとられ、日本は文明開化の道をひた走った。さらに第二次大戦の敗戦後はアメリカ化が進み、日本人が、容姿は日本人なのに生活だけでなく考え方までも欧米化されてしまった。僕もNHKで洋楽・洋舞の番組を量産していたが、体調を崩して早めに退職し、しばらくの間、文化庁の芸術祭の舞踊部門の審査員をつとめた時代がある。この部門は洋舞も邦舞も審査するので、日本独自の邦舞を見て日本人であることの喜び、大切さを



を痛感させられた。以後、折りにふれて積極的



創立40 おめでとう

作曲家
ウクライナ国立



日本の楽器には一音の緊張感、間の取り方、など西洋音楽に無い魅力が沢山ありますが長音が少ない。二時間にわたるドラマ作りとしては苦しい。そこで長音をヴァ

に邦舞だけでなく各種の日本文化にふれることができ、ようやく日本人らしくなれたと思う。邦舞の舞台は、舞踊家各人が獲得した高み深みを誇示する場が多いが、往々にしてひとりよがりになり終わり楽しいとはいえない時も少なくない。それに対し「菊の会」の舞台は、専門家だけでなく広く一般の人々に訴える力があつた。遠くなってしまった日本を再び近くで見せてくれたのである。

先日、「菊の会」創立四十年の会ということにな

れた。何よりも驚いたのは広い会場を埋め尽くした観衆が我がことのように身を乗り出して沸き立っていることであつた。舞踊と音楽との形象化という単なる同一平面での変貌を試みるのに留まらず、舞台装置から照明に至るまで、それぞれの分野の強い連携を狙った演出の明晰さによるものだということがくつきりと示されて、スピード感溢れる華麗な舞台を形成していた。(変幻自在の三隅さんの演出もさることながら)何よりも一人一人の踊り手が解放さ

ら楽しませてくれた。第二部は「躍れ日本の心」と題して畑道代さんが民謡や民俗芸能そしてポピュラー曲などから選曲振付した小品十一作を上演。北海道から沖縄まで手早く案内してくれた。この公演は度重なる海外公演で見せたものが中心というが、本質的にはスタジオ公演での内容構成と変わりはなくようだ。舞台の大小に拘らず厳しさを貫く姿勢は、優しそうで強かった畑道代の信念を「菊の会」が正しく継承していることを伝えていて感動的だった。



ホムレとこころ



出来る事なら 再度の機会を

鹿児島県知名町
町長 平安正盛

昨年十二月十二日に沖永良部島で「日本のおどり〜南国に舞う〜」として、「菊の会」公演がありました。沖永良部島は鹿児島県の奄美諸島の一つで、鹿児島市から南下すること五百四十キロ(空路で約一時間)、「花と鍾乳洞の島」として知られ、温暖な気候を活かしたテックポウユリ等の花卉類、サトウキビ栽培で農業を中心とする農村地域です。

外海離島ということで生の舞台芸術を鑑賞する機会に恵まれず、この度の「菊の会」の公演は児童生徒はもとより一般の方々も、大きな感動を覚えたことであります。当地域は、歴史的に沖縄との係わりが深く、琉舞に接する機会が多いですが、華麗な本格的な日本舞踊を目の当たりにする機会はずいぶりでした。

当日は「菊の会」のご配慮で二回公演となり、一部では町内二校の中学校生徒を対象に、文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」で開催され、二部では一般を対象に公演し、二回とも五百五十席のホールが満席となるほどの盛況でした。

学校公演が鹿児島県、 宮島・大分県・沖縄県で開催！！



屋久島町立中央中学校の皆さんと共に

夢実現の エネルギーに！

南種子町立 島間小学校
校長 上野美保子



沖永良部島初公演を終えて、平安町長と共に

今回の公演のきっかけは、独立行政法人「宇宙航空研究開発機構」時代に縁がありました。「菊の会」本部長の寺門邦次氏の情報提供のお蔭で実現できたものであり、心から感謝いたしております。

不便な離島僻地までお越し頂き、多くの島民に大きな感動を与えて頂きました。スタッフの皆さん方にも心から感謝申し上げます。できる事なら再度の機会に恵まれることを期待するものであります。

これからも、日本の伝統芸



能である日舞の指導・普及、日本文化の普及拡大にご活躍されますと共に、「菊の会」のご隆盛を心からご祈念申し上げます。

ピック選手や青年海外協力隊OG等にお出でいただき、演技を見たり講話を聞いたりする機会を得ました。

文化庁主催事業「菊の会」公演もその一環として申し込んだものです。「本物にふれる」「がんばってこられた方々の話を聞く」ということを通して、児童は「努力することの大切さ」や「夢実現の重要性」を自覚しつつあります。

今回の「菊の会」公演では、プロ集団の凛とした踊りを観て、踊りのよさを本感し、また、この夢実現プログラムの推進を通して、自分から進んで努力する児童が増えてきたように思います。「あきらめない」姿勢が随所にてきて、「やればできる」という自信が醸成されてきています。来年もいろいろな方々のお話を聞く機会を設け、児童の内なる思いを明確にさせる膨らませ、夢を実現するためのエネルギーにしたいと考えています。





菊の会の皆さんの舞踊に感動！

鹿児島県南種子町
町長 梶原弘徳

舞踊集団「菊の会」 沖永良部島・屋久島・種子島

一月三十日(月)、福祉センターにおいて、これまでに数々の賞を受賞し、世界中で活躍されている日本を代表する舞踊集団「菊の会」の初公演が行われました。

この公演は、島間小学校の文化庁主催「巡回公演事業」への申し込みと、南種子町と舞踊集団「菊の会」本部長の(元宇宙航空研究開発機構)寺門邦次氏が、町民の皆さんにも本物の伝統舞踊を、ぜひご覧いただきたいとの思いから実施されたものです。

体験事業では、長唄「寿菊三番叟」など美しい舞踊の鑑賞や、徳島県の「阿波踊り」など児童の皆さんも参加し



南種子町初公演を終えて、梶原町長と共に

「踊りこて楽しいね」と、身を乗り出して観ていた児童の姿が印象的な一時間半でした。

本校では、児童に夢をもつて学校生活を送ってもらうために、今年度夢実現プログラムを推進しています。将来像を一年生から描かせ、外部の方々を招聘して夢をもつてがんばるこのすばらしさや仕事への誇り等を語ってもらう機会を設け、将来への憧れをもたせているのです。この一年、元オリ

ンリンした。特に、ワークショップに参加した五・六年生は、全国各地に伝わる踊りに感動して、「島間に伝わる踊りを踊りたくなった。」「自分たちが地域の伝統を残していかなければ。」との思いを強めていました。

また、出演者の踊りを目の前で観た児童たちは、「笑顔で踊っていらっしやるので楽しかった」と思ったけれど、吹き出る汗からすごい運動量なんだ。」と、プロの厳しい姿勢も学ぶことができました。



島間小学校の元気な皆さんと共に

て公演が行われ、貴重な体験を通して、日本の伝統芸能のすばらしさを感じていました。

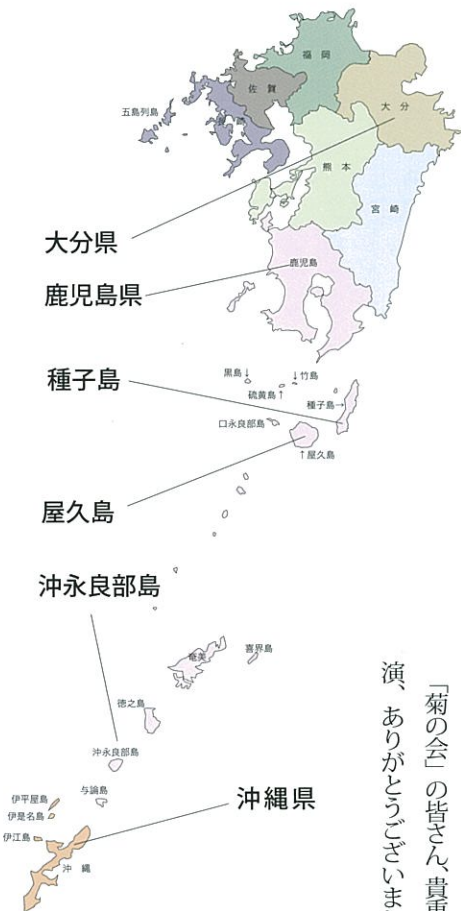
また、児童代表からお礼に花束が渡されると、スペースシャトル「ディスカバリー」に搭乗し、宇宙で日本舞踊を

披露した山崎直子氏の振付などを、「菊の会」の皆さんが担当されていたことから、山崎直子氏からのサイン色紙が島間小学校に贈られました。

その後、みなみたね文化まちづくり実行委員会並びに舞踊集団「菊の会」による公演

『日本のおどり〜南国に舞う〜』が盛大に行われました。開場前から多くの方が訪れ、狂言舞踊「棒しばり」や「祝太鼓」など日本の伝統文化の美しさ、迫力に触れ、会場からは盛大な拍手が送られました。

「菊の会」の皆さん、貴重な公演、ありがとうございました。



南種子町初公演を終えて、梶原町長と共に

島間小学校の元気な皆さんと共に

Air Mail

日本のこころ、韓国の秋空に舞う

神奈川大学
外国語学部 国際文化交流学科
助教 **久田 和孝**



韓国公演終了後、お客様と共にロビーに於いて、左端が今回大変にお世話になりました久田氏

この度、外務省と日韓文化交流基金が策定した「二十一世紀東アジア青少年大交流計画」の派遣事業として、菊の会の皆様を韓国忠清北道の清州市にお迎え致しました。清州市は歴史の都、ちよ

ど韓国の国土の中心にあたる部分に位置する道庁所在地です。韓国と菊の会とのご縁としては、一九九九年のソウルの名門、慶熙大学の講堂「平和の殿堂」こけら落としでの公演が記憶に新しく、こちらには今でも九十九年当時の畑道代先生の舞台をご記憶されている方、その当時の感激を大切にされている方がいらっ

しやいます。菊の会の来韓公演は、国営放送のKBSをはじめ、地元新聞、ラジオなどでも取り上げられ、大きな注目を集めました。国立忠北大学の大讲堂での本公演には清州市長、武藤正敏駐韓日本国特命全權大使ご夫妻にも観覧頂き、場内熱気溢れる大喝采の舞台となりました。特にハン・ポムドク清州市長は記念撮影はもとより、レセプションでも壇上で阿波踊りに参加される程、菊の会の大ファンとなられた様子でした。

市内の二つの大学でもワークショップを実施して頂き、複雑な歴史や政治問題が横たわる日韓関係がありながらも、韓国の青年たちは太鼓阿波踊りに夢中になり、菊の会の踊り、振舞いすべてに感動を受けて紅潮した面持ちで会場を後にしていきました。公演も手伝ってくれた清州大学の学生たちは、自分たちの大学祭で阿波踊りを披露したいからお稽古をつけてほしいと願い出てきました。「文化大恩の国」「兄の国」と称された韓国へ、畑道代先生と菊の会の皆様、日本文化をもつてその恩返しを、未来ある青年たちにして下さった、感動の韓国公演でした。

2012年菊の会公演お知らせ Information

【京都八瀬アトリエ公演】～薫風に舞う～

公演日：2012年5月12日(土)・13日(日)
時間：11時・15時開演
会場：菊の会八瀬研修所(京都)
チケット：全席自由 4,500円(当日 5000円)

第14回【さつき会】～若者達の舞踊会～

公演日：2012年5月26日(土)・27日(日)
時間：12時・16時開演
会場：菊の会スタジオ
チケット：全席自由 4,000円

会館自主事業公演

【菊の会 日本を躍る 鎌田英一 日本を謳う】

公演日：2012年6月10日(日)
時間：15時開演
会場：武蔵村山市民会館(さくらホール)大ホール
チケット：指定席 5,000円/自由席 4,500円

菊の会自主公演

【日本のおどり】～初夏に舞う～

公演日：2012年6月30日(土)
時間：14時30分開演
会場：千葉市文化センター アートホール
チケット：指定席 6,000円/自由席 5,000円

菊の会自主公演

【日本のおどり】

公演日：2012年7月8日(日)
時間：15時開演
会場：所沢市民文化センター ミューズ(マーキーホール)
チケット：指定席 6,000円/自由席 5,000円



菊の会創立40周年記念公演

舞踊劇【阿国かぶき】

公演日：2012年10月18日(木)
時間：14時開演
会場：浅草公会堂
チケット：指定席 7,000円
自由席 5,000円

「継承」

Coffee Break

コーヒーブレイク

畑 道代先生は、踊りだけでなく、日常の在り方の細かな所まで、私達に、又御自身にも厳しい先生でした。幼い頃に、畑先生がおっしゃって

おられた「心を踊る」の言葉が耳に残っています。畑先生の舞は、美しいのは勿論のこと、胸の奥深くに、一人のひとを大切に想う深い愛情と、信念があつて、それだから観るものの心に響いたのだと思っています。

私は、地元の茨城県の鹿嶋子供教室に、六歳で入会しましたが、畑先生にお会い出来るチャンスは、年に数回だけでした。初めて古典のお稽古をつけて頂いた時には、本当に緊張したことを、今でも鮮明に覚えています。

今となつては、もう直に畑先生の舞に触れることは出来ませんが、私が頂いた喜びと感動を、後世の方々にも味わって頂けるような芸を目指さなければと思っております。

そして、生まれ変わっても、また必ず畑先生の弟子になつて、踊りたいと思つてい



天舞グループ3期生 高安喜代美

【プロフィール】

6歳より畑道代に師事。
1996年 内弟子となる
1999年 歌舞劇「追分の女」出演
2004年 東京新聞社主催「全国舞踊コンクール」にて「玉屋」第2位入賞。

ます。私も未熟ながら、担当講師としてお稽古をさせて頂く中で、畑先生のお姿を思い出しながら、一人でも多くの方に、日本舞踊の楽しさ、素晴らしさを伝えていけるように、精進して参ります。